

佐倉市GIGAスクール構想の実現へ

～一人一台端末は令和の学びの「スタンダード」～

GIGAスクールとは、令和元年12月に文部科学省が発表した一連の教育改革案のことです。

**GIGAは「Global and Innovation Gateway for All」
(全世界とイノベーションへの扉をすべての子どもたちへ)の略語です。**



佐倉市教育委員会

GIGAスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

※文科省「GIGAスクール構想の実現へ」より



佐倉市教育委員会

佐倉市GIGAスクール構想

教育ビジョンに基づく施策「学力向上・学習内容の充実」

「わかる授業」「楽しい授業」を実践し、「もっと学びたい」という意欲を高めるとともに、各教科や総合的な学習の時間では、自ら課題を見つけ自ら解決する力や学びあいなどを通じてコミュニケーション能力を育てていきます。また、家庭との連携を図りながら学習習慣の確立に努めます。

さらに1人1台タブレット端末で



佐倉市の教育が変わる！
さらに「わかる授業・楽しい授業」へ

佐倉市教育委員会



佐倉市GIGAスクール構想学びのイメージ

学びのステップアップ



ステップ1 使う・慣れる

例)・使い方を知る・ちょっとしたことを調べる・メッセージを送る



ステップ2 「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる1人1台端末

例)・検索サイトを用いて、授業テーマに応じて様々な文章や動画を収集する。(調べ学習)
・情報の真贋を判断し、整理する。(情報モラル教育)
・文章作成ソフトを活用し、推敲を重ねて長文のレポートを作成する。(表現・制作)



ステップ3 教科の学びを深める・教科の学びの本質に迫る

※ 双方向型一斉授業

例)・動画撮影で、振り返りやよりきめ細かな分析を可能にする。
・各自で収集した様々なデータをPC上で重ね合わせて深く分析する。

ステップ4 教科の学びをつなぐ・社会課題等の解決・夢の実現

例)大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び(遠隔授業)



佐倉市教育委員会

“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも”使えるICT

🌱 検索サイトを活用した調べ学習

- ・一人一人が情報を検索し、収集・整理
- ・子供たち自身が様々な情報にアクセスし、主体的に情報を選択する



🌱 文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用

- ・子供たち一人一人が考えをまとめて発表
- ・共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合い



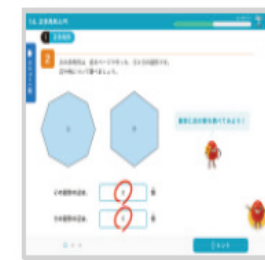
🌱 一斉学習の場面での活用

- ・誰もがイメージしやすい教材提示
- ・一人一人の反応や考えを即時に把握しながら双方向的に授業を進める



🌱 一人一人の学習状況に応じた個別学習

- ・デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化
- ・様々な特徴を持った生徒によりきめ細やかな対応を行う



※文科省「GIGAスクール構想の実現へ」より

佐倉市GIGAスクール構想に向けて

＜端末整備概要＞

時期	タブレット整備台数
令和2年9月	1校あたり2クラス分
令和3年1月	3クラスにつき1クラス分(全校の1/3)
令和3年4月	1人1台(全児童生徒)

＜ICTを活用したオンライン学習支援＞

分野	活用ツール
同時双方向の遠隔授業・ホームルーム	オンライン会議用ソフト
授業配信(オンデマンド形式)	録画配信用ソフト
遠隔授業支援・協働学習 ※教育支援ツール	協働学習用ソフト
確認テスト・家庭学習 ※学習支援ツール	ドリル学習用ソフト



佐倉市教育委員会

活用場面

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進捗で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C3 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

※「学びのイノベーション事業」実践研究報告書(平成26年)より



佐倉市教育委員会

職員研修



講師を招いての研修

操作・活用研修

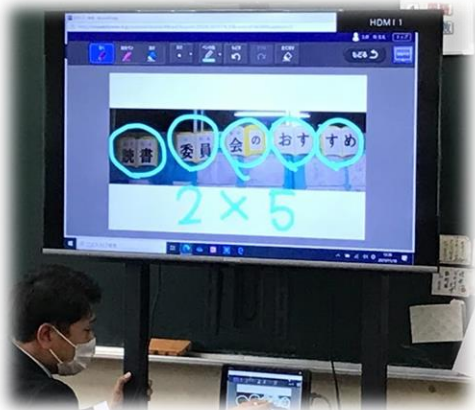


教職員同士のオンライン研修



佐倉市教育委員会

授業実践



教材の提示



ノートとタブレットの併用



発表・教え合い学習

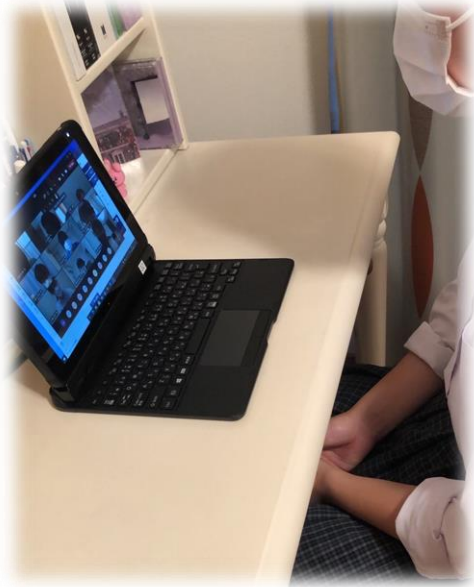


モデル校の授業参観



佐倉市教育委員会

オンライン配信



学校と家庭の
オンライン通信

オンラインによる授業配信



オンラインによる
学活・健康観察



佐倉市教育委員会

令和4年度の取組

令和4年度末の実践結果

①実践の共有

- 市内全校の実践例を共有できるフォルダを整備し、情報を共有
- 研究モデル校で公開授業研究会を実施

②臨時休校に備える取組

- 休校時にオンラインによる授業や短学活を実施

③個別最適な学びへの取組

- 特別な理由により登校できず、授業配信を希望する児童生徒に対しては、オンライン授業を展開



令和5年度の取組

各学校が目指す新たな取組

①実践の共有と拡充

○市内全校の実践例を共有できるフォルダを工夫して実践例のさらなる拡充を目指す。

②タブレット端末を活用した学びのステップアップを目指す

○ステップ1からステップ2、ステップ3への移行

→下記の場面における活用機会の向上を目指す

「児童生徒が自分で調べる場面」

「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」

「教職員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりする場面」

「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」



佐倉市教育委員会